

1 今回の企画の前提となる状況・目標 等

- ・参加者：班別役割であること、コロナ対応から、広汎な住民の参加でなく役員の参加
- ・自治会ごとに班を編成。参加者はM自治会は6人、O自治会は3人。今回は自治会連合会の取組の中での2自治会での試行だが、他自治会の方も模擬的な班を構成(D班O人)。
- ・地区防災計画作成の体制等：昨年度から2年間の取組。作成単位は連合自治会。毎月の連合会会合・それに先立つ役員会で検討。この資料作者は検討には不参加。
- ・同計画の内容：地震時の自治会の班別の役割分担中心。班は6つで、情報班／避難支援班／救護班／消火班／給食・給水班／避難誘導班。

・自治会の熟度と目標：両自治会ともまち歩きを実施し、結果をMP+委託で防災マップ化。M自治会は書面の班別役割は生きており、行動のノウハウを得ることを目的とします。

- WSでは、役割の模擬検証(誰(どの班が)・どのように)に加え、「どれだけ」、避難行動要支援者対応の意識付けまでできれば最善

O自治会は過去の班分けが引き継がれておらず、再検討の契機とすることを目的とします。

- 計画内容を災害の時間の流れで体験すること(誰が・何を)。可能なら班間調整共通の状況付与に対して、水準の異なる目標に向け各自治会でワークする形。

2 企画側のその他の意図：次年度以降、参加自治会では継続(課題を優先順に検討していくこと)と、他自治会では実施(課題の抽出と解決策の検討)が各々できるようにします。

また、後述する切り口でいえば、「どれだけ」についても意識を向けること(可能なら「どこで」も)があります。

なお、「いつ・いつまでに」は、災害の時間の流れにおいては、状況付与で「何を」を進行時間に応じ順に示すので、今回は検討の余地は少なく、平時の時間の流れにおいては、解決策の優先順の検討をしていただくこととしています。

3 WSの進行

(1)「知る」は、今回は市による市自主防災リーダーハンドブック・当地区防災計画の説明

(2)ワーク 意見の表出：

- ・配付物：下の表の内容とその解説相当物(既存)を組み合わせた資料(WSの時間の制約に備え提供。またノウハウを得たいとのご要望に応える)
- ・冒頭の地域の特徴の確認の後、災害の時間流れに応じ以下の表により進めます。
- ・班の行動計画ができればよく、切り口としては、以下があります。

誰が / 何を / どこで / どれだけ / どのように / いつ・いつまでに
・一般的には「何を」を抽出し、次にそれをする際の課題(困りごと)・解決提案 と展開。

・付箋への書込：WSの発言はしっかり記録しないと、非常に有用な情報であっても残せません。記入することに慣れない住民もいることに留意しましょう。指導役が各班にファシリテータと入れれば最善。今回は記録に通じる情報班の方が意識的に他の参加者に促します。

【誰が・どのように・課題】と【解決提案】とを分けて記入します。

	風水害(地震を参考に風水害を企画)	地震(地震を対象に試みた)
	①(5分)(作成済防災マップのふりかえり) 地図による地域の特徴の確認	
作業1 各作業 は20 分程度	②警戒レベル2 台風接近前 ・(人)現状確認(名簿、連絡網。ショートステイ・早期避難等の現状)。行動の確認促し ・(物)避難経路・気になる箇所・資機材確認 ・情報入手(必要に応じ発信) ・レベル3での行動のための準備:避難場所等開設準備	②-1(5分)状況付与～直後の個人の行動 ※今回のWSでは一時避難場所へ「飛び」ますが、班として組織的な対応をとる前の次欄の行動も課題のひとつ。
作業2	③警戒レベル3(相当) 高齢者等避難開始 ・情報伝達(随時入手) ・支援実施:何人を何人で(誰が) ・レベル4での行動のための準備:安否確認準備or着手	②-2(20分)一時避難場所(組織的なチェック前に関わらず動く事態への対応) ・被害と安否の確認:(情報班)何を ・救助・搬送:何人を何人で/資機材/ どこへどうやって ・消火:初期消火はどうやって/消防水利
作業3	④警戒レベル4(相当) 避難指示 ・避難支援:何人を何人で(誰が) ・報告	③-1(20分)避難一般 ・どこ:一時避難場所へ(から)/狭あい・危険物・ハザードなど行き詰まるおそれ ・どれだけ:一時避難場所への集合人数狭あい・危険物・ハザード
作業4	⑤逃げ遅れ ・救援?(組織的なチェックにより判明する「否」への対応):何人を何人で(誰が) ・命を守る個人の行動	③-2(20分)避難支援(組織的なチェックにより判明する「否」への対応) ・避難支援:何人を何人で/資機材/どこへどうやって ・安否確認:何により/「否」の方に対する行動...
避難以外でさらに続けるなら、避難所運営や復旧復興があります。今回は扱わない。 なお、避難所運営は風水害では地震と異なり発災前から業務が発生します。		

風水害の詳細状況付与は、和歌山県・岐阜県に例があります

(3)ワーク 各班での全体まとめ

・次に、【誰が・どのように・課題】

【解決提案】の2種類の付箋に対し、解決提案付箋を模造紙縦位置はそのまま下に移し、取組の優先順を勘案して下の中で上下に分けます。

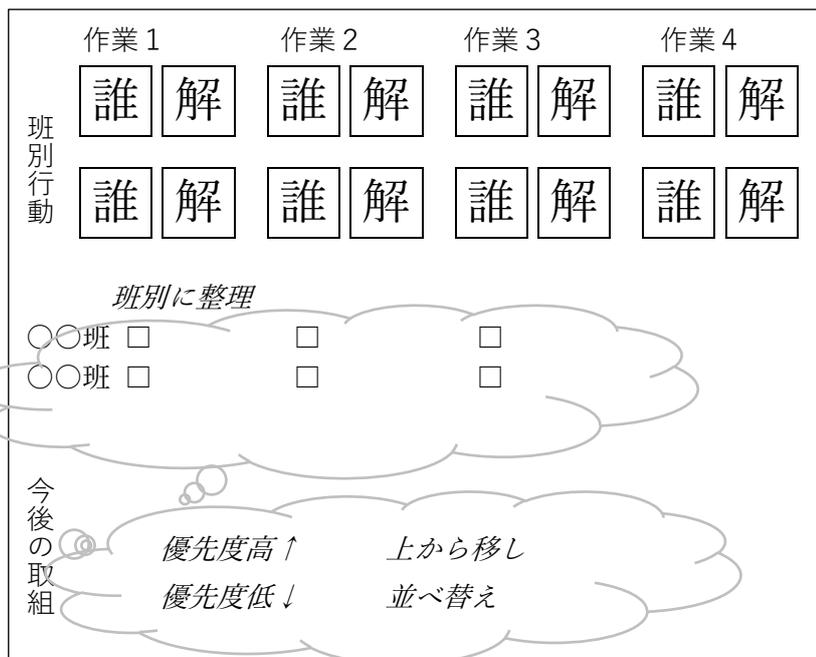
・今できること

・1、2年でできそうなこと

・3～5年以上かかること

上に残った付箋は班別に整理して、必要に応じ応援する班を書き込み。

・地図と模造紙にまとめることで、現状・課題、解決策が見えるようになれば最善です。



(4)各班発表 講評

4 取組継続・展開

(0) 3での検討結果が検証できるような実地訓練を企画して実施することが望まれます。

(1)地区での継続

・3で検討した課題解決の取組（検討）を継続していきます。

・1回のWSの時間不足の点は、今回は簡易な手引きが作れる「きっかけと持続性の提供」の提供物で補います。

(2)他地区への水平展開

・今回は連合自治会内の一部自治会でのWSなので、この資料を参照するなどして他自治会でも展開するようにします。連合自治会として各自治会への促進取組となれば最善です。

参考文献

・瀧本浩一 2019(初版 2008)自治体議会政策学会叢書『第5版 地域防災とまちづくり—みんなをその気にさせる災害図上訓練—』

・内閣府 H26.3『地区防災計画ガイドライン』

・飯田市 H26.9『地区防災計画策定の手引き』